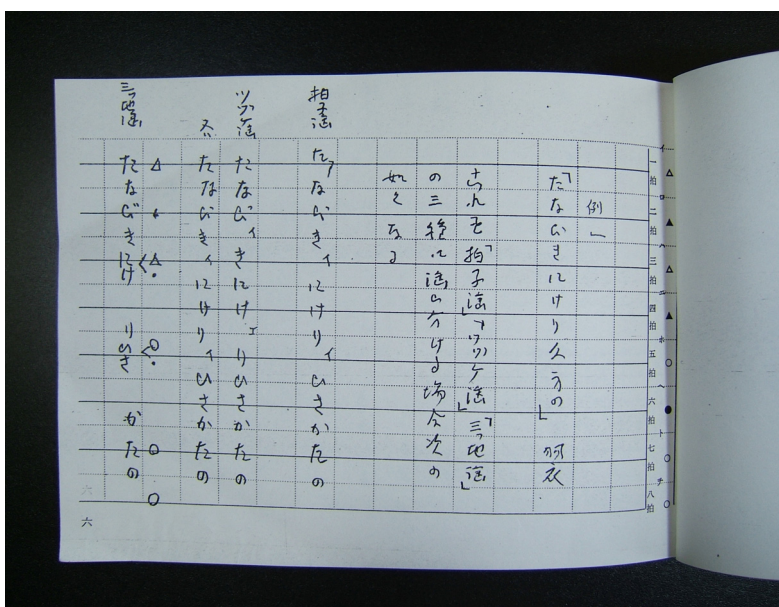
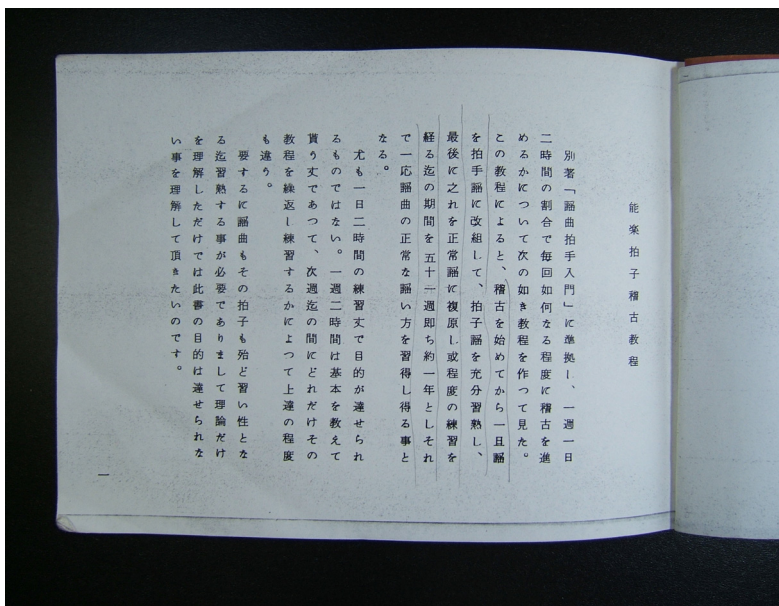


著者不明 『能楽拍子稽古教程』

『謡曲拍子入門』(122頁)を教材として利用して拍子謡を教え、それから正常の謡を復原するために、一週間一、二時間、全五十一回におよぶ各回の実習内容を記した、いわゆるシラバスである。最初の十回は、拍子の理論、手の動かし方等。十一回から大ノリ、十七回から中ノリ、十九回〜三十一回までが平ノリの実習。三十二回からは、正常に戻すための方法として「つきつかず」「三ツ地ノツツケ謡」「呼吸の順逆」を実例にもとづいて説明。四十回から最後まででは、素謡の練習である。最後の到達点が素謡であるのが心憎い。



標題 内題…能楽拍子稽古教程

標題紙…謡曲拍子入門 練習教程

奥附…

その他…

著者 奥附…

その他の場所…

出版 版次…

出版地…

出版社…

出版年…

その他の場所…

形態 冊数…一冊 頁数…九丁

寸法…14×21 (cm)

状態 写本版本の別…ゼロックス版本 現物複製の別…現物

備考 『謡曲拍子入門』と合綴。出版年は、1

22頁と同様、昭和四六(一九七二)年であらう。